

血液科

1. スタッフ（平成24年4月1日現在）

科 長（教 授）小澤 敬也
 外来医長（学内講師）大嶺 謙
 病棟医長（病院講師）藤原慎一郎
 医 員（教 授）坂田 洋一（兼）
 古川 雄祐（兼）
 室井 一男（兼）
 （准 教 授）永井 正
 三室 淳（兼）
 （講 師）森 政樹
 尾崎 勝俊
 鈴木 隆浩
 外島 正樹（兼）
 窓岩 清治（兼）
 （学内講師）大森 司（兼）
 （特命講師）上田 真寿（兼）
 （助 教）松山 智洋（派遣）
 翁 家国
 （病院助教）畑野かおる
 多々良礼音
 目黒 明子
 松 春子
 岡部 寛（派遣）
 上原 英輔
 小林 洋行（派遣）
 シニアレジデント 1人

2. 診療科の特徴

- 造血器腫瘍をはじめとするすべての血液疾患に対して、充実したスタッフが連携して診療を行っている。
- 急性白血病、悪性リンパ腫に対しては、化学療法、抗体療法や放射線療法などの集学的治療を積極的に行い治療成績の向上を目指している。
- 多発性骨髄腫に対するボルテゾミブ、レナリドミド、サリドマイドや骨髄異形成症候群に対するアザシチジン、悪性リンパ腫に対するベンダムスチンなど、有効性の期待される新規治療薬も使用している。
- 再生不良性貧血や発作性夜間ヘモグロビン尿症などの難治性貧血疾患に対しては免疫抑制療法やエクリズマブによる最新の治療を行っている。
- 血栓・出血性疾患についても専門医が診療に参加しており、多くの疾患に対応可能である。
- 造血幹細胞移植も積極的に行っており、患者さんの病状にあわせてミニ移植、臍帯血移植を含む様々な移植手段を選択し、良好な成績を得ている。

・認定施設

日本血液学会認定研修施設
 日本輸血細胞治療学会認定教育施設
 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
 日本がん治療認定医機構認定研修施設

・認定医

日本血液学会専門医 小澤 敬也 他14人
 日本血液学会指導医 小澤 敬也 他 8人
 日本内科学会認定医 小澤 敬也 他21人
 日本内科学会専門医 森 政樹 他 6人
 日本内科学会指導医 室井 一男 他 8人
 日本輸血学会認定医 室井 一男 他 2人
 日本がん治療認定医 森 政樹 他 2人
 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 森 政樹

3. 診療実績・クリニカルインディケータ

1) 新来患者・再来患者数・紹介率

新来患者数 671人
 再来患者数 19,126人
 紹介率 66.4%

2) 入院患者数（病名別）

病 名	患者数
急性骨髄性白血病	114
急性リンパ性白血病	39
骨髄異形成症候群	47
非ホジキンリンパ腫	151
ホジキンリンパ腫	7
成人T細胞性白血病	4
多発性骨髄腫	25
慢性骨髄性白血病	2
慢性骨髄単球性白血病	5
慢性リンパ性白血病	2
Langerhans細胞組織球症	1
Castleman病	4
再生不良性貧血	9
特発性血小板減少性紫斑病	10
造血幹細胞移植ドナー	21
その他	23
（造血幹細胞移植患者）	(25)
合 計	464

3) 手術症例病名別件数

病名	人数
脾臓摘出	2
その他	1
合計	3

4) 治療成績

急性骨髄性白血病初回寛解率	84%
急性リンパ性白血病初回寛解率	80%
非ホジキンリンパ腫R-CHOP療法寛解率	70%
ホジキンリンパ腫ABVD療法成功率	100%

5) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

白血病、骨髄異形成症候群	10
悪性リンパ腫	5
多発性骨髄腫	2
再生不良性貧血	1
Castleman病	1
Langerhans細胞組織球症	1
壊死性筋膜炎	1
合計	21

<剖検数> 2名

<剖検率> 10.0%

6) 主な検査・処置・治療件数

骨髄穿刺	約1000件
骨髄生検	約50件
遺伝子診断	約200件
細胞表面抗原解析	約1000件
白血病初回治療	37件
悪性リンパ腫初回治療	62件
再生不良性貧血ATG療法	6件
造血幹細胞移植(合計)	25件
血縁者骨髄移植	4件
非血縁者骨髄移植	5件
血縁者末梢血幹細胞移植	4件
臍帯血移植	9件
自家末梢血幹細胞移植	3件
ミニ移植	7件
治験ofatumumab	1件
治験CC-5013	1件

7) カンファレンス症例

<血液科症例検討会>

- ・特発性血小板減少性紫斑病
- ・血栓性血小板減少性紫斑病
- ・NK細胞関連腫瘍
- ・新規抗癌剤ベンダムスチンによるリンパ腫の治療
- ・新規抗癌剤アザシチジンによる骨髄異形成症候群の治療
- ・成人発症Langerhans細胞組織球症
- ・再発難治性白血病の治療戦略
- ・Castleman病とアクテムラ

- ・臍帯血移植生着不全
- ・ジェノバにおける臍帯血移植(海外視察報告)
- ・2nd transplantation
- ・原因不明のcytokine stormをきたした症例
- ・de novo B型肝炎
- ・Lymphoplasmacytic lymphoma
- ・多発性骨髄腫の治療戦略

4. 事業計画・来年の目標

当科は栃木県内で数少ない血液科診療を行う施設の一つとして来年度も診療にあたる。

各種臨床試験に積極的に参加して新規治療薬、治療法の標準化に貢献したい。また、厚生労働省「特発性造血障害に関する調査研究」班の主要メンバーとして再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、発作性夜間ヘモグロビン尿症などの難治性疾患に対する治療法の先駆的開発を行っていききたい。

急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫という症例数の多い腫瘍性疾患に対しては、新規分子標的療法の導入、造血幹細胞移植療法の適応拡大による治療成績向上を目指すと同時に、悪性リンパ腫に対する養子免疫遺伝子療法や間葉系幹細胞を用いた難治性移植後GVHDの治療など新たな治療法の開発を推進する。